

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：12602

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17689

研究課題名（和文）女性特有癌の遺伝的リスク情報に対するソーシャル・リスクコミュニケーションの確立

研究課題名（英文）Establishment of psychosocial risk communication for cancer genetic risk information

研究代表者

甲畑 宏子 (Kohbata, Hiroko)

東京医科歯科大学・統合研究機構・助教

研究者番号：90762542

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：若年女性へのグループインタビューから、乳癌と遺伝性乳癌の認識において異なる要素があること、及び遺伝性腫瘍を専門領域とする遺伝カウンセラーのインタビューから、未発症・若年女性に対する遺伝カウンセリングにおける態度が明らかとなった。また、疾患認識を客観的に評価するため日本語版 IPQ-RH (the Revised Illness Perception Questionnaire for healthy people) 尺度を完成させ、信頼性・妥当性を検証した。さらに、若年女性への遺伝性乳癌教育を効果的に実施するため、方策（実施場所・頻度・内容）及び効果検証方法について、有識者会議を実施し策定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
癌未発症の若年女性における乳癌、遺伝性乳癌の疾患認識を明らかにすることで、効果的な癌教育を行うための知見を得ることができた。また、本研究で開発した疾患認識尺度の日本語版はあらゆる疾患に適用することができ、社会一般・健常者集団における疾患認識を客観的に評価することを可能にした。また、本研究により、遺伝性腫瘍領域を扱う遺伝カウンセラーのネットワークが構築されたこと本研究の成果の一つであり、教育の発展・拡大の基盤となりうる。

研究成果の概要（英文）：Using focus-group interviews, the differences of illness recognition between breast cancer and hereditary breast cancer was found among young women. Interview survey with certified genetic counselors revealed attitudes toward hereditary breast cancer among non-affected young women. In addition, in order to objectively evaluate illness perception, the Japanese version of IPQ-RH (the Revised Illness Perception Questionnaire for healthy people) scale was developed and its reliability and validity were verified. Furthermore, expert meetings were held to consider how to implement effective education for hereditary breast cancer to young women and the place/opportunity, contents and frequency of the education were decided.

研究分野：遺伝カウンセリング

キーワード：リスクコミュニケーション 病気認知

1. 研究開始当初の背景

全がんのうち「女性特有の癌」といわれる乳癌、子宮癌(子宮頸・体癌)、卵巣癌は3割を占め、25 - 29歳の年齢層においてはこれらが6割に及ぶと報告されている(がんの統計2015)。癌の発症は若年女性のライフスタイル形成に大きな影響を与えるが(J Cancer Surviv. 2008; 2:205-14,2009;3:66-71)、婚姻等のライフスタイル形成には癌発症の有無だけでなく「遺伝的リスク」についての情報や認識も影響を与える可能性が考えられる。20 - 30歳の癌未経験者で未婚の女性に対する調査では、約半数の回答者が「もし自分がHBOCの原因遺伝子に異常をもつことが分かったら結婚や出産を躊躇うだろう」と回答していた(J of Hum Genet. 2020; 65: 591-9)。一方で、遺伝性癌の原因となる遺伝子変異の情報、いわゆる遺伝的リスク情報は、適切な検診による癌の早期発見に繋げることができるため、本人の健康管理に重要かつ有効な情報と認識されている(Genet Med.2013;15:565-74)。女性特有癌の遺伝的リスク情報に対する正しい「リスク認知」を形成し、適切な健康行動を推進するためのコミュニケーションモデルが必要である。

2. 研究の目的

そこで本研究では、女性特有癌に焦点を当て、社会に対する『ソーシャル・リスクコミュニケーション(SRC)』の手法を確立することで、適切な遺伝的リスク認知を促し、広く健康行動を推進することを目指した。特に、若年世代に対する適切なSRC手法を確立することで、ライフスタイル形成・決定に対して遺伝的リスク情報を正しく活用していく環境の整備が早急に必要である。

3. 研究の方法

- (1) 女性特有癌の疾患予防に関連する受け取り手のニーズ及び、女性特有癌に関連する受け取り手の疾患の認識を明らかにする。この疾患の認識を理解する手がかりとして“illness representations”(J Natl Cancer Inst Monogr.1999;25:81-5)という理論モデルを活用する。より客観的に疾患の認識(「病気認知」)を把握するために、既に開発されているIPQ-RH(the Illness Perception Questionnaire for healthy people)(Psychology and Health. 2007; 22(2): 143-58)の日本語版(the Japanese version of IPQ-RH: IPQ-RH-J)を開発し、開発した日本語版尺度を用いてウェブによるアンケート調査を行った。乳癌に対する病気認知の特性を把握するため、Common diseaseである糖尿病の病気認知と比較した。さらに、少人数でのフォーカス・グループインタビューを行い、女性特有癌、特に乳癌に関連する病気認知の同定及びニーズ把握を行った。遺伝的リスクに関連する乳癌についての病気認知を明らかにするため、乳癌と遺伝性乳癌のそれぞれについて知識や認識を尋ねた。インタビュー結果の解析にはKJ法を用いた。
- (2)(1)で明らかにしたニーズと疾患の認識に対し、「適切なリスク認知」(遺伝的リスクを正しく理解し、適切な健康行動・ライフスタイル形成の決定)を促すことのできるSRC手法を確立する。遺伝性癌を専門にする遺伝カウンセラーによる有識者会議を実施し、SRCの対象の明確化、コミュニケーション方法及び内容の検討を行った。

4. 研究成果

(1-i) 日本語版健常者向け病気認知尺度(IPQ-RH-J)の開発

26項目からなる日本語版IPQ-RHが完成し、日本語版IPQ-RHの信頼性・妥当性の検証作業を行った。解析の結果、日本語版尺度の信頼性及び妥当性が確かめられた。乳癌と糖尿病の比較から、症状継続の長さ、結果の重大さ、コントロール感の低さ、生じる感情の多さなどに違いが生じた。疾患の原因に対する認識については、精神的要因には差がなく、遺伝的要因に対する認識に差がみられた(投稿中)。

(1-ii) 遺伝性乳癌に対する病気認知とニーズ

インタビューで得られた乳癌及び遺伝性乳癌に関する情報を概念化・構造化し、図1及び図2の結果が得られた。乳癌に対するイメージとして、「乳癌の原因・診断に関する事柄」として検診や早期発見の重要性、「乳癌発症に対して抱く気持ち」として心理的影響(後悔、動揺、恐怖等)や就職・結婚・出産への影響に対する不安、「乳癌の治療に関して抱く事柄」として経済的影響、ボディイメージの変化から生じる生活への影響などが挙げられた。一方、遺伝性乳癌では、発症に伴う治療や影響に関するイメージは乳癌と同様であったが、遺伝子変異が原因であることに由来する「遺伝子検査を行うメリット」、遺伝に伴う問題としての「家族への影響」及びそこから生じる「出産への躊躇い」、さらに「将来にわたる精神的影響」が見いだされた。

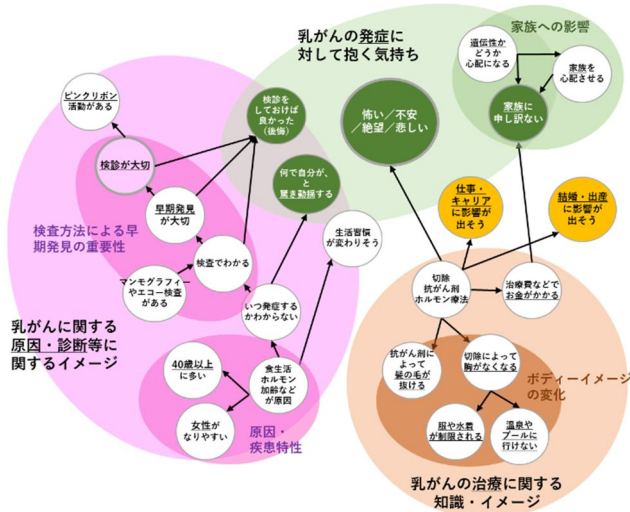


図 1. 乳癌に対する認識の概念図

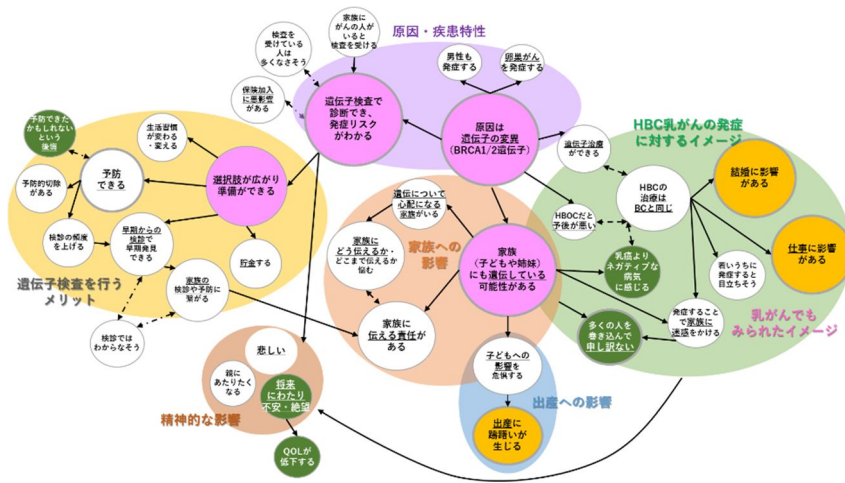


図 2. 遺伝性乳癌に対する認識の概念図

(2) ソーシャル・リスクコミュニケーションの検討

遺伝性腫瘍領域の遺伝医療に従事する認定遺伝カウンセラー7名により、SRCの取り組み手法について検討がなされた。コミュニケーションの対象者は、乳癌未発症者をメインとし、乳癌発症者や乳癌患者のパートナーも広く含むこととした。教育プログラムは、乳癌検診率、遺伝に対する理解、遺伝性乳癌ハイリスク者の遺伝医療受診率向上、の3点を主なアウトカムとして設定し、それらが同時に達成可能な内容が議論された。また、一時的な教育活動に留まらないためのパッケージ化についても議論がなされ、教育場所や今後の展開についても検討がなされた。

< 引用文献 >

Figueiras M & Alves N. Lay perceptions of serious illnesses: An adapted version of the Revised Illness Perception Questionnaire (IPQ-R) for healthy people. *Psychology and Health*. 2007; 22(2): 143-58.

Grren R. et al., ACMG recommendations for reporting of incidental findings in clinical exome and genome sequencing. *Genet Med*.2013;15:565-74.

Leventhal H et al., Population risk, actual risk, perceived risk, and cancer control: a discussion. *J Natl Cancer Inst Monogr*.1999;25:81-5.

Syse A. Does cancer affect marriage rates? *J Cancer Surviv* 2008;2 :205-14.

Syse A, Aas GB. Marriage after cancer in older adulthood. *J Cancer Surviv*. 2009; 3: 66-71.

Terui-Kohbata H. et al., Knowledge and attitude of hereditary breast cancer among Japanese university female students. *J Hum Genet*. 2020; 65: 591-9

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Terui-Kohbata Hiroko, Yoshida Masayuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Current condition of genetic medicine for hereditary breast cancer	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Molecular and Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 98 ~ 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/mco.2017.1260	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 甲畑 (照井) 宏子、四元 淳子、青木 美保、大石 陽子、内田 信之、赤木 究、吉田 雅幸	4. 巻 27
2. 論文標題 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群における遺伝カウンセリング受診の障壁に関する多施設調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医療と社会	6. 最初と最後の頁 261 ~ 275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4091/iken.2017.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 甲畑(照井)宏子, 高橋沙矢子, 吉田雅幸	4. 巻 38
2. 論文標題 遺伝カウンセリング記録の研究利用に関する実態調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本遺伝カウンセリング学会誌	6. 最初と最後の頁 69 -75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Terui-Kohbata Hiroko, Egawa Makiko, Yura Kei, Yoshida Masayuki	4. 巻 65
2. 論文標題 Knowledge and attitude of hereditary breast cancer among Japanese university female students	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Human Genetics	6. 最初と最後の頁 591 ~ 599
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1038/s10038-020-0743-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲畑宏子	4. 巻 25
2. 論文標題 がんゲノム医療における遺伝カウンセリング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 腫瘍内科	6. 最初と最後の頁 64-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲畑宏子、三木義男	4. 巻 24
2. 論文標題 がんと遺伝	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 115-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 甲畑 (照井) 宏子、高橋沙矢子、青木美保、由良敬、吉田雅幸
2. 発表標題 日本語版健常者向け病気認知尺度 (IPQ-RH) の作成
3. 学会等名 第43回日本遺伝カウンセリング学会・第26回日本遺伝子診療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 甲畑 (照井) 宏子、高橋沙矢子
2. 発表標題 日本人女子大学生の乳癌・遺伝性乳癌に対するイメージの検討
3. 学会等名 第25回日本家族性腫瘍学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 甲畑宏子、由良敬、吉田雅幸
2. 発表標題 日本人大学生の遺伝性乳がんに関する意識調査－中間報告－
3. 学会等名 第41回日本遺伝カウンセリング学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 甲畑宏子、田辺記子、金子景香、青木美保、犬塚真由子、鈴木美慧、深野智華
2. 発表標題 認定遺伝カウンセラーによる乳癌教育教材作成の取り組み
3. 学会等名 第26回日本遺伝性腫瘍学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 甲畑宏子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メディカル・ドゥ	5. 総ページ数 160
3. 書名 遺伝子医学 CGC Diary 大学病院での遺伝カウンセリング ～多科連携による多様な症例への対応～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>学際生命科学東京コンソーシアム 第12回 市民講演会 https://www.kitasato-u.ac.jp/pharm/general_info/download/n20170920.pdf</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----